山口県立

総合医療センターだより

2018.11
vol.34

Contents

■副院長 就任のごあいさつ
■トピックス
心不全と地域連携
■診療情報
糖尿病週間に寄せて
■看護部通信
日本ＤＭＡＴ隊員養成研修を受講しました
■部署だより
医療安全推進室の活動
■地域医療連携ニュース
「治療と仕事の両立支援相談窓口」を開設しました
■院長だより
■インフォメーション
県民公開講座、やまぐち医療最前線の放送予定、
きららサロンのご案内、編集後記
■外来診察担当医表（別紙）

就任のごあいさつ

副院長　中村 康彦

本年4月から副院長を拝命しました中村です。

皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。専門は産婦人科で、特に不妊症・婦人科内分泌疾患を中心に診療・研究に励んできました。

昨年、当院の外科系主任部長に任命され、専門科の枠を越えた臨床上の諸問題や病院の管理・経営に関わる職責の一部を担うようになりましたが、今回の立場はさらに病院の命運を左右するような重責であり、これまでと違った勉強・経験に日々悪戦・苦闘しております。有難いことに、当院にはすべてに精通しておられる藤井副院長がおられ、分からないことや判断に迷うことがあれば、ご迷惑を省みず相談し、多くを吸収している最中です。

経営者側に立って改めて驚愕することは、急性期病院が置かれた現状です。今後さらに進んでいく人口減少、少子高齢化、医療費抑制への圧力、高額化する薬剤や医療器材、なんとなく感じていたことが具体的な数字として目の前に提出されます。

当院では、法人化以降の様々な改革によって仕組みや形は整ってきましたが、まだ道半ばです。武藤院長を補佐し、優秀なスタッフとタッグを組んで、迅速に改革を進めていく所存です。

最後になりますが、行政の目論む医療改革では、医療圏のさらなる病病連携、病診連携が求められます。今後とも、ますます緊密にお付き合いいただきますようお願い申し上げます。

〈プロフィール〉

1957年、福岡県北九州市小倉生まれ。1982年、山口大学医学部卒業後は鳥越教授主宰の産科婦人科学講座に入局。済生会下関総合病院、周東総合病院を経て、1985年以降は大学病院で勤務。2004年から当時の県立中央病院勤務となり、現在に至る。

趣味は読書、スポーツ観戦（テレビ）、運動（ジム）、ゴルフ。

トピックス

心不全と地域連携

循環器内科診療部長　池田 安宏

近年、心不全を発症される患者さんが年々増加しています。心不全は55才で健康であった成人の3人に1人がかかると言われる病気です。この病気は、むくみや息切れで症状が始まり、だんだん進行し寿命が縮まる病気の総称で、高血圧、心筋梗塞、弁膜症、心筋症などの基礎疾患がある患者さんに起こりやすいといわれています。また、頻脈（脈がはやくなる状態）や徐脈（脈がゆっくりになる状態）を伴った不整脈発作も心不全の原因になります。夜間寝ているときに急に息苦しくなることが多いのもこの病気の特徴です。

当院では、平成29年1月から4階南病棟に心臓病センターを設置し、このように急に循環器の専門的対応が必要になった患者さんに対し、いつでも十分な対応ができるような診療体制を目指しています。

平成30年11月から、心不全患者さんのフォローアップ体制を充実させるため、「心不全地域連携パス」を立ち上げさせていただくように準備を進めています。地域のプライマリケアを担当される先生方とともに、患者さんがより良い生活を送れるように医療を提供させていただきたいと考えておりますので、ご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

循環器内科カンファレンス

心臓カテーテル検査

糖尿病週間に寄せて

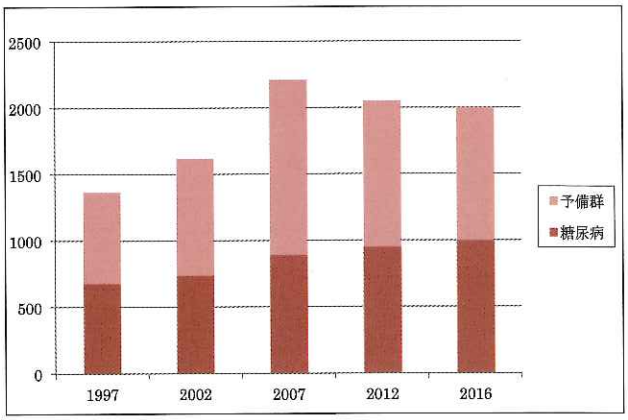
内科系主任部長　内分泌内科　井上 康

国際糖尿病連盟は11月14日を世界糖尿病デーと定め、世界中でさまざまな啓発活動を行っています。11月14日はインスリンの発見者フレデリック・バンティングの誕生日にあたり、日本でも11月12日から18日までを全国糖尿病週間と名付け、啓発イベントを行う予定です。

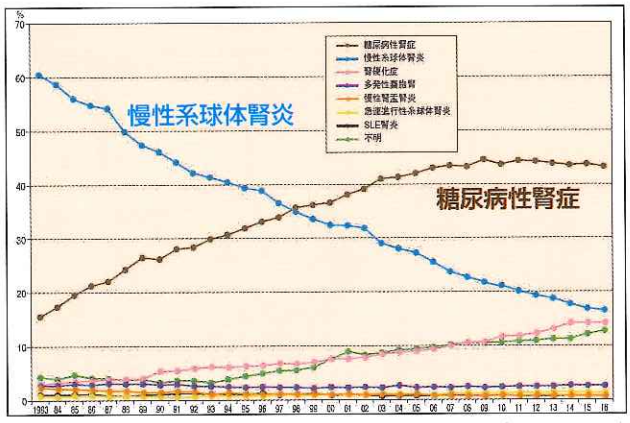
これらの活動の甲斐あってか、わが国では糖尿病患者の増加傾向が頭打ちになってきています。5年毎に発表される厚生労働省のデータによれば、糖尿病が強く疑われる人は1,000万人と推計されていますが、糖尿病が強く疑われる人と可能性が否定できない人（いわゆる予備群）の総計は、2007年の2,210万人をピークに、2016年には2,000万人と減少しています。

一方で、進行した糖尿病合併症はQOLを損ない、なかでも腎症が進行して人工透析が必要となれば医療費も膨大となります。1998年以降、新規人工透析導入原疾患の第1位は糖尿病であり、年間約16,000人にのぼります。レニン・アンジオテンシン系阻害薬の登場によって新規導入患者数は横ばい状態ですが、さらに減少させるためには、より早期から介入する必要があります。医師、看護師、管理栄養士が連携して、患者ごとに個別の生活改善指導を行うことが重要です。

当センターでは糖尿病患者の治療はもとより、糖尿病の発症予防、合併症の発症・進展予防にも力を入れています。



糖尿病患者の推移（万人）
（厚生労働省：平成28年国民健康・栄養調査）



新規人工透析導入原疾患の推移（%）
（日本透析医学会）

看護部通信

日本DMAT隊員養成研修を受講しました

ICU　大石 竜也

４日間の研修を終え、私は日本DMAT隊員資格を得ることが出来ました。医師、看護師、コメディカル、事務職の混合チームで救護所やＳＣＵ{ステージング・ケア・ユニット（航空搬送拠点臨時医療施設)} を想定した実働訓練を受けました。

DMAT 実働訓練風景（防府市）

訓練を通して、各機関と連携し、正確な情報の把握、安全の確保、医療ニーズを判断する困難さを経験することができました。また、トリアージ、治療、搬送の訓練を繰り返し行い、状況を冷静に判断し優先順位を考えるスキルの重要性を学びました。

基幹災害拠点病院である当院は、２チームのDMAT隊を有しています。現在までに東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害への派遣実績があり、被災地における災害発生直後の急性期に医療活動を行っています。

今後もDMAT隊員の一員として、24時間365日いつでも災害に対する緊急対応ができるよう、平時から訓練を怠らず、専門知識の修得に努めていきます。

医療安全推進室の活動

医療安全推進室　師長　木原 雅子

交通安全週間は世間一般によく知られていますが、医療の世界にも「医療安全推進週間」というものがあります。これが制定された背景には、平成11年1月の横浜市立大学附属病院の患者取り違え、同年2月の都立広尾病院の薬剤取り違えと、立て続けに発生した大きな医療事故があります。

国は医療の信頼回復に向けて医療安全の組織的取り組みの促進を図ることを目的に、11月25日（いい医療に向かってGO）を含む１週間を「医療安全推進週間」と定めました。当院でも毎年、標語、ポスター、シールによる注意喚起、チームラウンド等様々な期間中の取り組みをしてきました。院内から募集した各部署の標語においては、中央検査部の最優秀作品賞（図1）、ポスターでは看護師の子どもが描いた人々の絵（図2）が印象に残っています。

また、誤認ゼロを目指したチームポスター（図3）も各部署仕立てで人気がありました。毎年恒例になっている「チーム全員でのラウンド」では全ての部署をまわり、毎年チームの絆が強くなっています。このように様々な取り組みを経て医療安全環境の基盤整備ができてきました。

今年の医療安全推進週間は11月25日(日)～12月１日(土)です。期間中、医療安全推進室では「患者の安全は、自分の安全」というキャッチフレーズを基に活動します。ルールを遵守することが患者さんの身を守り、ひいては自分の安全を守ることに繋がるということを真剣に考える１週間にしたいと思います。

図１

図２

図３

地域医療連携ニュース

「治療と仕事の両立支援相談窓口」を開設しました

平成30年9月から、「治療と仕事の両立支援相談窓口」を院内に開設しました。山口産業保健総合支援センターから委嘱された「両立支援促進員」が無料で相談に応じ、両立を支援します。

このような不安や心配はありませんか？

- がんと診断されたけど仕事を続けたい
- 病気のことを会社にうまく伝えられない
- 治療と仕事が両立できるか不安
- 今後の働き方について、誰に相談したらよいか分からない

①まずは、
医療相談室・がん相談支援センターへ

②お話をお伺いし、
「両立支援促進員」が所属する、
「両立支援相談窓口」へご案内します。

〈両立支援相談窓口の業務内容〉

相　談　日：毎月第２・第４水曜日（年末年始・祝日は除く）
時　　間：11：00～15：00
対　象　者：がん、脳卒中、心疾患、糖尿病、肝炎、その他難病などの疾患に罹患している患者さん　※当院受診歴のない患者さんも可
問い合わせ先：医療相談室・がん相談支援センター
備　　考：予約制　※適宜相談可（無料）

院長だより

周防大島町で2歳男児が3日ぶりに、無事に発見・保護されたニュースは日本中を安堵させました。一方、誰しも予想できなかった9月6日未明に発生した北海道地震の被災者のみなさまには心からお見舞いを申し上げます。

当院は高度急性期・専門医療の提供に加え、基幹災害拠点病院としての使命があります。11月7日に当院での大規模災害訓練を計画し鋭意準備を進めています。

次年度の初期臨床研修医受入れのマッチングも終え、働き方改革の一環として研修医用新棟の建設工事も着工しました。

武藤　正彦

インフォメーション

○平成30年度県民公開講座予定表

日　時	演　目	講　師	場　所
平成30年 12月22日(土)	脳の病気―治療の最前線― 演題1 切らずに治す脳卒中 演題2 てんかん・ふるえ・パーキンソン病の最新治療	脳神経外科 演題1 部長：安田 浩章 演題2 診療部長：藤井 正美	山口南総合センター
平成31年 2月 2日(土)	がん緩和ケアについて（仮）	麻酔科 部長：中村 久美子	防府市アスピラート

○やまぐち医療最前線（tysテレビ山口）

放送日時	放送内容	出　演
11月 3日(土) 18:55～19:00	「チーム医療で取り組む高齢者の心不全」	循環器内科 池田 安宏　医師
11月 7日(水) 16:50～16:55		
12月 1日(土) 18:55～19:00	「高度な診断に基づく最新の治療 てんかん・パーキンソン病」	脳神経外科 藤井 正美　医師
12月 5日(水) 16:50～16:55		

○きららサロン

対　象：がん患者さん・ご家族
場　所：当院外来棟２階 会議室前コーナー
日　時：毎週火・金曜日 10：30～15：00

○きららサロンミニ講座

がんと向き合う日々のためのミニ講座
「頭髪や皮膚ケアについて」
日 時：11月13日(火) 13：00～13：30
講 師：がん化学療法看護認定看護師　村田 佳子
場 所：当院外来棟２階 会議室前コーナー

【基本理念】
県民の健康と生命を守るために
満足度の高い医療を提供する

○編集後記

私が入職した年に誕生した長男も、もうすぐ3歳になります。

新しい言葉を覚えたり、昨日までできなかったことができるようになったりと、日々の進化（成長）には驚かされます。

病院を取り巻く環境の変化も、子どもの成長のように激しいものがあると思います。わずかな変化にも気づくことができるように、アンテナを広く張り、情報をキャッチし、しっかりと発信していけるように精進してまいりたいと思います。

（企画調整室　H.A）

地方独立行政法人　山口県立病院機構　山口県立総合医療センター
〒747-8511　山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411（代表）　FAX 0835-38-2210　URL http://www.ymghp.jp
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center